

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第105号(201804)

発行 竹田幸男



■寝屋川市映像協会 平成29年度総会開催

寝屋川映像同好会が所属する寝屋川市映像協会では、3月25日、総合センター視聴覚室で定時総会が開かれ、昨年度1年間の活動報告、会計報告ならびに監査報告、そして今年度の活動計画と予算案が提案され、原案通り可決されました。

例会の窓

映像同好会3月例会

日時：3月14日(水) 13:30～

場所：市民活動センター4Fこども部屋

出席者：新井 小笠原 谷 中村地区委員

欠席者：4名(50音順・敬称略)

1. 報告・連絡・協議事項

(1) 会報随想 新井さん

(2) 今年の撮影会リクエスト どのような所へ行きたいか。

- ・他のクラブと合同
- ・秋には、映像協会

(3) 第11回寝屋川映像フェスティバルは5月13日(日)

(4) 映像協会総会/合同例会 総合センター4F視聴覚室で実施。

- ・3月25日 10時30分 役員会 11:00映像寝屋川総会
- ・13:00~ 映像協会総会/合同例会。作品映写。

2. 映写

(1) 谷さん 「2月のハイキング部 金剛山」 6分

- ・雪景色がよかった。

(2) 新井さん 「はすの成長記録」 9分20秒

- ・5月発表会作品 完成

(3) 新井さん 「イチゴになるまでの記録」

- ・制作中

3. 各会員の最近の活動状況・情報交換・当面する問題点等(省略)



奈良公園で冬鳥と鹿・リスさがし

谷 弘子

2018年2月、奈良公園へ集合する。鹿はたくさんいて、孫も鹿にあえて大喜び。次に公園内を歩いて、松ぼっくりを見つける。そのまわりでリスの食痕を探す。

写真のように エビフライみたい。

これはリスが食べた後の、まるでエビフライみたいな松ぼっくりです。→

リスは見つけることができなかったけど、たくさんのリスがいることがわかりました。

東大寺付近へ行くと野鳥をたくさん見かけました。「ニューナイスズメ」「ヒレンジャク」「アトリ」「ツグミ」「エナガ」「メジロ」等。



アトリ(雌)





エナガ

暗くなってから活動する、ムササビがみたくて長い間待ちました。巣がある場所はわかっているのですが、なかなか見つかりません。大きな高い木の上の方に照明をあててもらって、やっとムササビを見つけることができました。



デジカメで撮ったムササビの写真です。→

望遠カメラなら、うまく撮れたかもしれません。

新しいことをたくさん知ることができて楽しい1日でした。

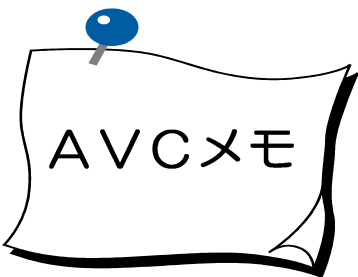
3月、六甲山でエビフライを見つけたと嬉しそうにお持ち帰りした主人。

←今も飾ってあります。

アトリは目の前で撮影できてラッキーでした。かわいい！



群れているヒレンジャク



ドリーズーム？

竹田 幸男

ビデオカメラのモデルチェンジの時期になったので、そろそろ何が出てくるか、とPanasonicのサイトを検索すると「HC-WXF1M」という新機種が目にとまりました。昨年はモデルチェンジがなかったビューファインダー付きのコンシューマ用最上級機種の2年ぶりの登場です。

いろいろの新機能の中で、「ドリーズーム」という機能が目にとまり

ました。

どういうものかということ、目の前に人物がいたとして、その人物の顔の大きさが変わらないのに、バックの風景だけがズームインしたり、ズームバックする、すなわち背景だけが近寄ってきたり、遠ざかって行ったりする、という、現実にはあり得ない風景が見られるのです。

これは「めまい効果」とも呼ばれ、その昔ヒッチコック監督の映画「めまい」で使われたことからこの名が使われ、不安とか驚きを表現する手法として、いろいろな映画に使われている、とされています。

ドリーとは、例えば三脚の下に滑車が付いたような台で、カメラを載せて移動でき、レールの上を移動するものもあるというもので、あの「風と共に去りぬ」のラストシーンで、ヴィヴィアン・リー扮するスカーレットが巨木の下に立ちつくす場面、カメラがどんどん後ろに下がって風景が広がっていく情景、ズームレンズが無かった時代にあの印象的なシーンを撮るにはドリーの力を借りたのだろうと想像しています。

さて、このドリーの上にカメラを載せ、例えばカメラをズームインすると、そのままでは目の前の人物も背景も大きく近づいてきますが、その状態でドリーごとカメラをバックして目の前の人物の顔の大きさが変わらないように前後移動の早さを調整すると、目の前にいる人物の顔の大きさが変わらないのに、背景だけがどんどん大きくなる、という、現実にはあり得ない奇妙な風景が撮影できます。

その逆にズームアウトしながらカメラをドリーごと人物に近づけていけば、人物の顔の大きさが変わらないのに、背景だけがどんどん小さく後退していく、という映像が得られます。

原理は、言ってしまうと、このように簡単ですが、目の前にいる人物の顔の大きさが常に一定であるようにドリーをうまく前後移動させるのは、難しい作業であろうと思います。

新製品に搭載された機能は、Panasonicの映像技術を駆使して、多分、ドリーなど不要で、カメラを固定したまま、このような映像を撮影できるのだろうと想像されますが、そのような新機能を使

えば、また新しい映像表現が出来るのではないかと、今から期待し、楽しみにしています。 ■